

リスクコミュニケーションとリスクリテラシー

伊藤 誠

リスクコミュニケーションとリスク認知

- リスクコミュニケーション

- ある対象／事象がもつ側面について、リスクとして適切に伝えるためのコミュニケーション
- ある人(グループ)があらたなリスクを負う必要が生じたときなどに必要となる
 - リスクが的確に認知されるか？

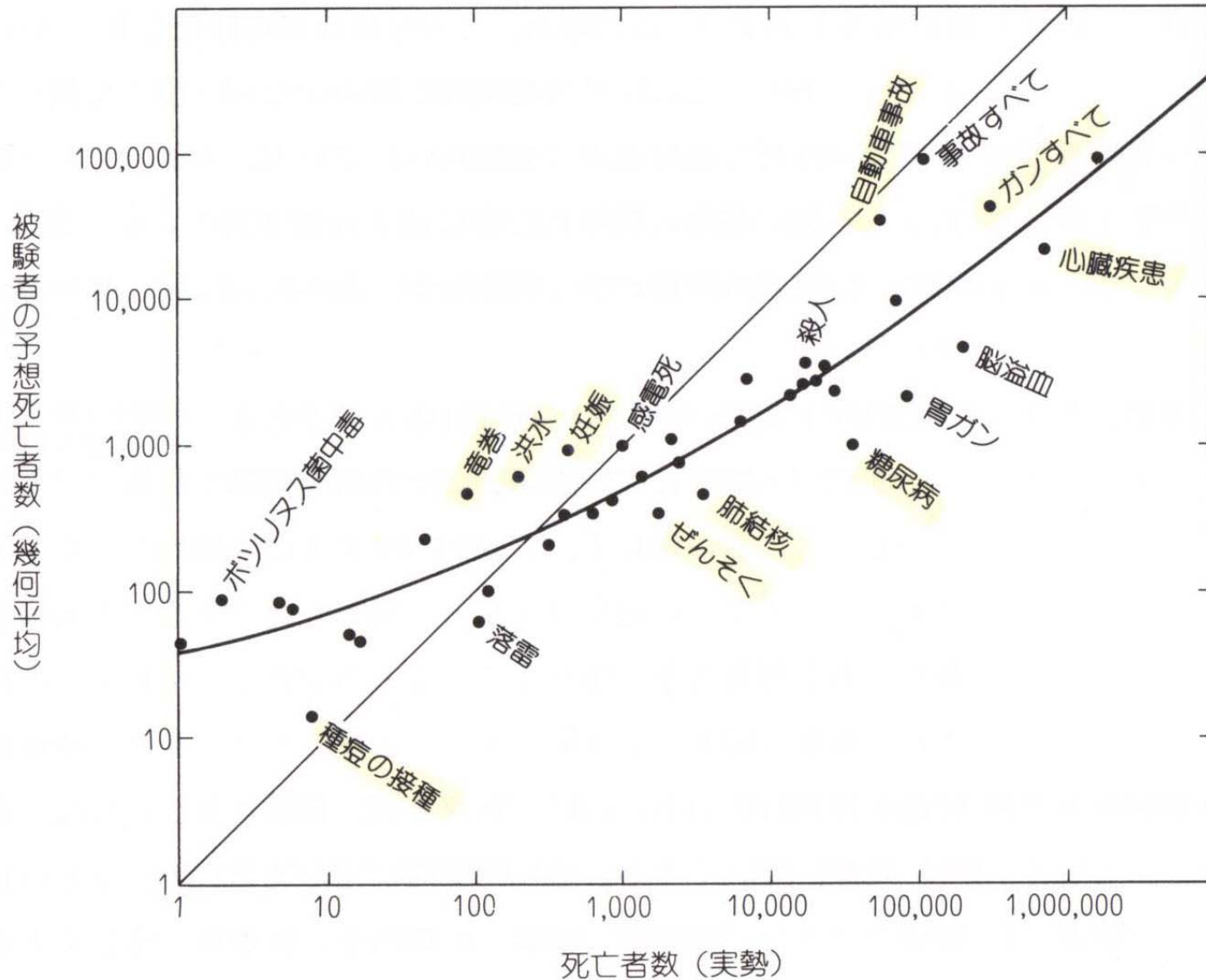
- リスク認知

- 主観的な枠組みの中でリスク事態を理解し、個人や社会にもたらすかもしれない危害についての予想を形作る心理的プロセス(リスク学辞典, 2006)
- ある事象の生起確率の主観的評価(確率認知)には、バイアス(偏りやゆがみ)が生じることがある

確率認知のバイアス (Lichtenstein, et al., 1978)

- 一次バイアス
 - 発生頻度の高いものに対しては、生起確率を低く見積もりやすい
 - 発生頻度の低いものに対しては、生起確率を高く評価しやすい
- 二次バイアス
 - 一次バイアスの全体的な傾向からのずれ

確率認知のバイアス (Lichtenstein, et al., 1978)

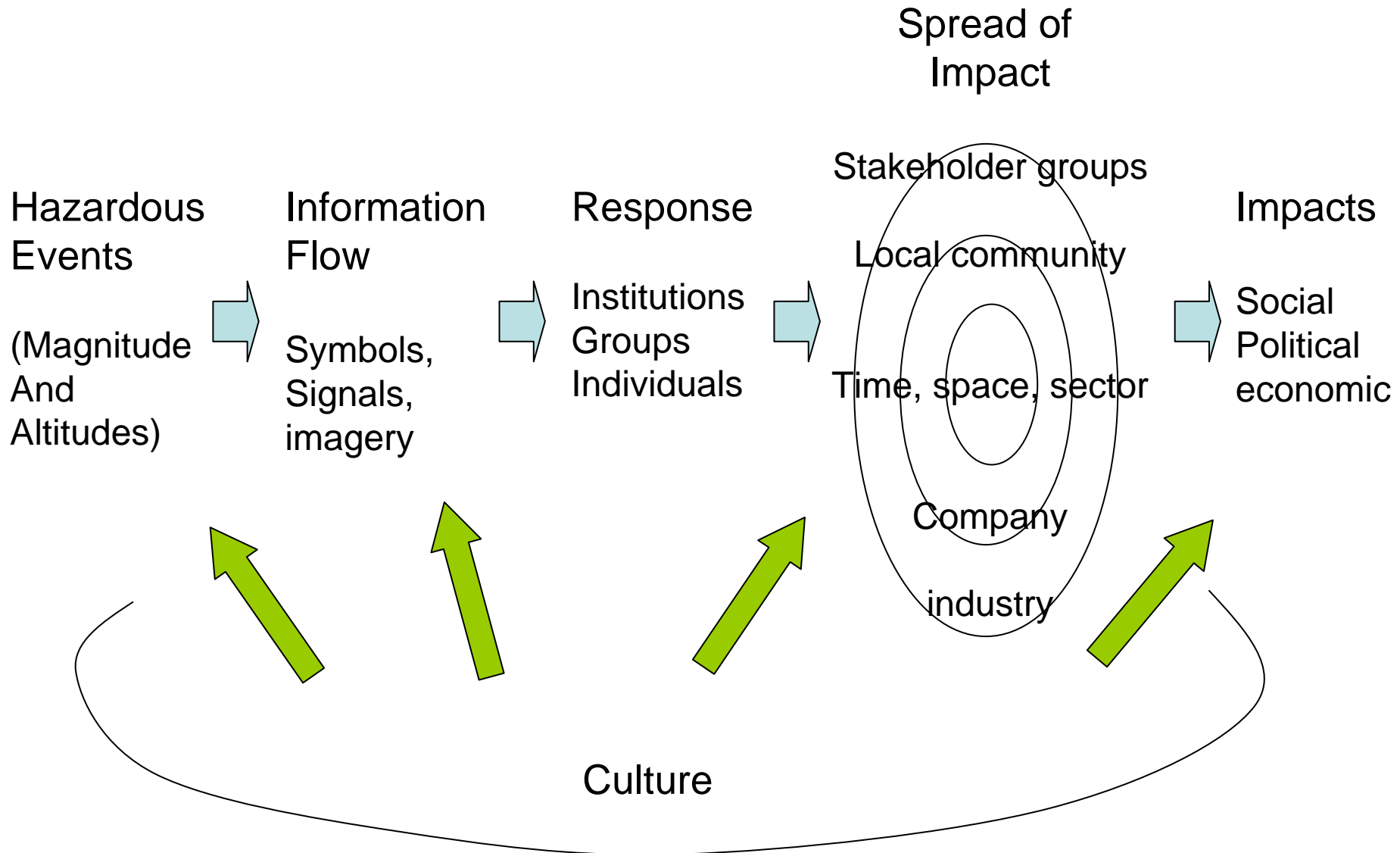


リスク認知のバイアスをもたらすもの

- たくさんある
 - 文化的要因, マスメディア, 等々
 - 統一的な枠組み
 - Social Amplification of Risk Framework (SARF)
 - リスク情報が伝わる過程を経る際に, 次のいずれかがおこるとき, それがどのようにして社会にひろまっていくかを, 記述するための枠組みがSARF (Kasperson, et al., 1992)
 - リスクが過大に評価される(amplification)
 - リスクが過小に評価される(attenuation)
- 一般の市民(lay public)がリスク情報をどう受け止めて, どのように対処するのかは, まだ十分に明らかになってはいない

Social Amplification or Risk Framework (SARF)

(Kasperson, et al., 1992)



リスクリテラシー

1. Underpinning → personal scientific knowledge relating to science in general, including concepts of uncertainty, as well as the risk issues, and
2. Personal interpretation of this knowledge in the context of everyday experience, and the reconciliation of different sources of information.

(Petts, et al., 2006)

ここでは、「リスクリテラシー」といっても、リスクコミュニケーションにおいて提供された知識／情報をどう解釈するか、といったものにとどまっている。

メディアリテラシーのうち、リスクに関する部分を取りだした、というイメージでとらえてもよい

リスクリテラシーについての調査

- Univ. Birmingham
 - Prof. J. Pettsを中心に, 一般市民(lay public)のリスクリテラシーやリスク情報に対する反応を, 様々な事例／被験者を用いて調べている
 - 得られた知見の例
 - 事例によっては, リスクのsocial amplification(もしくはattenuation)がおこらないものもある
 - 一般市民(lay public)は単なる情報の受け手ではなく, 自分で自立的に情報をとりにいこうとする存在である

リスク「コミュニケーション」から, リスク「デリバレーション」(deliberation)への転換の必要性を示唆している
すなわち, 「説得」から「協同」へ.